

「さあ、みんなで、考えよう」

「まちづくり」は「ひとづくり」！

～ 「あったかい柘植」 づくりのために 「さあ、みんなで、考えよう」 ～

柘植小・中学校で大切にしていることばに「つげっこ」という言葉があります。柘植に住む子どもは自分の家の子だけでなく、地域に住むすべての子どもが自分の子どもであり、みんなで見守り、ともに成長していこうというすてきな考えです。この考えを、子どもから年配の方まで、すべての柘植に住むひとに広げて、みんなが安心して暮らせる、誇りを持って暮らせる柘植づくりをめざして、本年度もこの通信を発行していきます。家族やなかまといっしょに「さあ、みんなで、考えよう！」



新学期開始 小・中学校教科書無償配布

教科書は、無償で配布されています。しかし、今から49年前までは、無償ではありませんでした。教科書は、戦後、ずっと各家庭で買っていたのです。この教科書を無償にするために、多くの人々が立ち上がった、教科書無償への物語をお届けします。

高知市長浜の「教科書をタダにする会」の取り組み

高知市長浜は高知市の南に位置し、土佐湾にのぞむ半農半漁のまちです。昔から農地が少なく漁業も細々と続けており、天候にも左右され、戦後からの復興期のなかで生活していくのは決して楽ではない状況でした。母親の多くは「失対」（失業対策事業）に出て働いていました。

母親たちは、毎年3月を迎えるのがつらかった。それは、教科書を用意してやらなくてはいけなかったからです。当時の教科書代は、小学校では約700円、中学校では1200円を超えていました。母親たちが「失対」で1日働いても、300円くらいにしかならず、生活資金にあてるのが精一杯でした。「義務教育だというのに、教科書がタダでないのはいかなるものか」誰かが言い出したのをきっかけに、「そういえば、憲法に書いてある」ということになり、憲法を読みました。日本国憲法第26条には、次のように書かれていました。

「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。」

母親たちは、話し合いで輪を広げ、先生たちの賛同も得て1961年に「長浜・教科書をタダにする会」を結成しました。「教科書をタダにする会」は各地で集会をひらき、署名運動をはじめ、一緒にたたかう団体も増やしていきました。その要求の高まりのなか、「教科書をタダに」の要求を高知市教育委員会に持ち込みました。教育委員会はこの要求を聞き入れたのですが、あまりにも要求者が多く、約束をなかったことにしました。教育委員は、姿をくらまし、かわって市長が要求にこたえると約束しますが、今度は教育委員が総辞職してしまい、それを待つようにして、市長は教育委員がいなくてとはと、また約束をなかったものにしてしまいました。学校

では印刷したプリントで授業が続けられました。そして5月になり一部無償を勝ち取りました。こうしたたかひが全国にも伝えられ、波及するなか、憲法の精神にもそった、国民の熱い要求であったので、国会でも、大きな問題として取り上げられ、1963年に、ついに「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」（教科書無償化法）が成立しました。1964年から教科書無償が実現し始め、最初の年は小学校1年生だけ、翌年は小学校3年生までと、順次、無償のわくが拡大され、1969年に小中学校で完全無償が実現しました。
(複数の人権資料を参考)

この教科書無償化への取り組み・運動こそが、部落解放、そしてすべての人々のしあわせのためへの同和教育から生まれたものであり、誰もが幸せに暮らせる社会実現に向けてのみんなの熱い思いの結集なのです。このような運動で勝ち取った無償の教科書を使って、小中学校に通うみなさんはこれから学習していきます。教科書無償化への経過と意義を大切に、自分の「学ぶ権利」を大切に、おいに学んでほしいと願っています。

柘植小・中学校の教科書配布時に

柘植小・中学校では、柘植小学校の1年生が入学するときに教科書配布時に使う袋に印刷されている下記の文部科学省の挨拶文を使いながら、教科書無償配布のことを新年度の最初に話をしています。

保護者の皆様へ
 お子様の御入学おめでとうございます。
 この教科書は、義務教育の児童、生徒に対し、国が無償で配布しているものです。
 この教科書の無償給与制度は、憲法に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、次代をになう子供たちに対し、わが国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いをこめて、その負担によって実施されております。
 一年生として初めて教科書を手にする機会に、この制度にこめられた意義と願いをお子様にお伝えになり、教科書を大切に使うよう御指導いただければ幸いです。
 文部科学省

(小学校新一年生教科書給与袋の裏に書かれている文部科学省の挨拶文)

人権に関する意識調査結果 (概要報告 3)

「人権に関する柘植地域住民意識調査」と伊賀市実施の同様の調査による「教科書無償化」についての認知度の結果を再掲載します。

義務教育の無料化(教科書無償化)・・・41.6%が知っている] (2015伊賀市)
 45.7%が知っている] (2017柘植地域)

文責・橋本浩信

4・5月の講演会や研修会の案内

- 5月22日(火) 柘植地域人権啓発合同事業 フィールドワーク(近隣) (9:30 ~ 12:20)やまなみ工房
- 5月25日(金) いがまち同研総会および講演会